

# 地域密着型サービス評価の自己評価グループホームコア

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を掲げ、職員やご家族、地域の皆様に分かりやすく明示している。職員会議で理事長と理念について話し合いがあり新たな理念を設定し、理念に添った実践を心がけている。	<input type="checkbox"/> ①思いやる心②穏やかな心③笑顔 相手の事を、思いやる。穏やかでいる。笑顔を忘れない。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基に自力目標を設定し、その実践に向けて日々努力をしている。	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	面会時や2ヶ月に1回の運営推進会議などで、理念を理解して頂ける様に努力している。	<input checked="" type="checkbox"/> 玄関などにわかりやすく表示している。 運営推進会議で積極的に話し合っていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の時に、隣近所の人や小学校の子供と気軽に声を掛け合っている。	<input type="checkbox"/>
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月のふれあいサロンへの参加や、小学校の学校行事への参加を行っている。	<input checked="" type="checkbox"/> 近くの中学校から文化祭の参加依頼があった。これからも、積極的に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度より自治会に入会したのを機に地域活動に参加する。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。又、評価にて指摘された事柄は早急に対応し、改善にむけて努力している。		指摘された事柄は会議で話し合い改善できるように取り組んでいる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、5回行い利用者の現状をご家族に報告し話し合いを行えた。今後も、積極的に取り組んでいきたい。		監査の報告、外部評価の報告、家族からの意見や利用者の状態、これからの取り組み方などを、主に話し合いをし意見交換をしている。又、そこで出た意見を会議等で話し合っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	計画作成担当者が行政との連携をはかっている。		計画作成担当者が定期的に職員に情報提供し、質の向上になるように努めている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度があることは知っているが、使用している利用者がいない為、活用していない。	○	制度について知っているが勉強不足な面があると思われるので勉強会を開き職員全員で学んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法の書類等を使用し、会議や日々の生活の中で管理者及び職員で話し合いを持っている。		研修等に参加し知識を増やしている。又、虐待に繋がらないように職員のストレスを溜めないようにゆとりをもって援助出来る様に配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族から不安・疑問・意見を尋ね、十分な説明を行い理解して頂ける様に努力している。	契約書、重要事項説明書を用いて詳しく説明出来る場所を設けている。その場以外でも、不安・疑問などがある場合は電話にて対応出来るようにしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不安・苦情を引き出せるような関わり方をしている。又、意見などを聞いた時は、速やかに対処し運営に活かしている。	苦情・不満を聞きだせるような環境づくりを行っている。又、退居した家族から苦情があった場合は会議で話し合い改善出来る様に取り組んでいる。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	コアラ新聞を発行をしたり、家族の面会時や電話等で利用者の健康状態を報告している。預かり金は請求書送付時に領収書を貼付した、ご利用証明書を送付している。	面会時や、受診の付き添い時に報告している。又、状態が変化した場合や早急に報告したい場合については電話にて対応している。職員の異動等については毎月コアラ新聞にて記載し提示している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情を管理者や職員に直接話して頂けるように常日頃から信頼関係を築く努力をしている。家族からの意見は謙虚に受け止め運営に反映している。	○ 職員用の意見箱や家族用の意見箱を設置している。コアラ新聞で、意見箱の事を説明している。4月からはコアラ新聞とアンケートをご家族に発送する予定となっている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から話し合い、会議にて方向性を決め全職員で取り組んでいる。	申し送り等で日々意見を聞いている。その場で方向性が決まらない場合には会議等を設けて話し合い方向性を決めている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の急変時や、家族対応などは必要な時間帯に職員の確保は出来ており、必ず職員間での話し合いや調整を行っている。	急変が発生した場合、全職員が早急に対応出来る様にマニュアルを作成している。その為、全職員が速やかな対応が出来る様になっている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を必要最小限におさえる努力をしている。又、移動や入職の場合には利用者・ご家族に挨拶を行っている。	離職時の引継ぎを徹底し、利用者に迷惑や心配をかけないように配慮する。又、離職前に必ず利用者・ご家族に挨拶をする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議の際に勉強会を設けている。又、研修を参加した者は会議等で報告し資料は閲覧出来る様にしている。	見学等に参加できる様に他の事業所と交流を持ち、参加する機会を確保している。又、他の事業所からの受け入れを許可している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	レベルアップ研修に参加・受け入れを通じて他事業者と交流し、質の向上に努めている。	○ 会社及び個人共にネットワークを広げ、新しい知識を増やし向上させていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時に何でも話し合える環境作りに努力している。又、年2回の親睦会に全職員が参加し、ストレスを発散している。	出来る限り、食事会等を行い各自が抱えている悩み等を相談出来る様にしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自目標を持ち勤務している。	○ わからないままにせず、職員間で話し合い理解をし向上していきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談にてじっくり傾聴している。施設内を見学して頂く。	見学後でも疑問・不安がある場合には電話での対応もしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談にてじっくり傾聴している。施設内を見学して頂く。	見学後でも疑問・不安がある場合には電話での対応もしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談にてじっくり傾聴し、他施設や他のサービス利用についても説明をすることもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が不安にならないように担当職員が付き、居室は家族と相談して、ご自宅で使用していた馴染みのあるタンスや写真を飾るなど工夫している。		2泊3日の体験入所をして頂き雰囲気を感じて頂く。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという事を全職員が意識して様々な事を教えて頂きながらお互いが協働し和やか生活が出来る様になっている。		コミュニケーションを多くとる事により、お互いを尊重しあえる環境作りを行っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事等に参加して頂き、共に楽しみを共感して頂く。		常日頃から話して頂けるような環境作りをしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に家族に現在の状況を説明する。又、入居前の利用者の状態や状況を聞き、家族と職員間の情報を共有する。		家族との話し合いを行った場合は、会議等で他の職員に報告。全職員が家族と同じ目線に立てるようにしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から馴染みのある場所を聞き入れ調整して出かけている。又、友人等の面会も気軽に出来る様に配慮している。		ドライブの際、利用者の馴染みの場所に行き昔話を聞く。その時に得た情報を職員で話し合いレクリエーションや行事に役立てている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員・利用者がコミュニケーションを取れる場所・時間を設け、話しやすい環境作りを行っている。		利用者同士で掃除の分担をし、お互いに助け合い生活の共有をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする場合が無かった。	○	今後、契約終了でも気軽に相談や立ち寄って頂けるような環境作りを行って行く
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞きだすようにコミュニケーションをとる。なるべく希望に副えるように家族・職員が協力出来る様に努めている。		困難な場合でも、希望に近づけるように家族・職員が協力をする。又、本人の意思を尊重出来る様に全職員が話し合いを設け近づけるようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族との話せる場を設け、得た情報を聞きだせるよう支援している。		入居前より本人・家族から情報提供をして頂く。又、入居後も面会時等に聞けるような環境作りを作っている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	会議や申し送りでの情報の共有を行っている。		会議や申し送りで1人ひとりの現状報告を行う。又、気付いたときに申し送りノートに記入しその都度対策を考えている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族が面会に来た時に時間を頂き、本人とご家族の意見を聞き作成している。		知り得た情報を全職員が把握・共有し計画作成に情報提供している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	会議を設け計画書を作成している。本人もしくは、ご家族にサインを頂きサービス内容を理解して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の様子などを、日誌や申し送りなどに記録して情報を共有している。家族の希望があれば記録をみて、介護計画における意見交換に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等を必要な支援を実践している。		家族の状況も配慮し、必要な場合は送迎等を行っている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアでは、ハーモニカ演奏の方が来園され楽しまれた。民生委員は、運営推進会議や行事に参加して頂いている。警察は、巡回を行って頂いている。	○	警察・消防との関係をこれからも密に行っていく必要がある。又、ボランティア活動の受け入れを今後増やして行く。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在の段階では、利用している方がいない為行っていない。又、必要性があれば支援していく。		必要性がある時に備えて、準備をしていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性があれば地域包括支援センターと協働していきたい。現在までは実例は無い。	○	今後、会議等の議題に掲げ話し合いの場を持ち取り組んで行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約の時は、家族と相談し前からかかりつけがあり希望される場合は優先して受診する事を支援している。		契約前の医療機関と異なり、事業所の方へ移行する場合は円滑に進むように協力している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	診断・治療は行っていないが、相談等は行える様に関わりをもっている。		専門医がいないが、当法人理事長(医師)が1週間に1回施設に訪問し相談する機会を設けている。又、その場での確な指示やアドバイスを得て支援できる様な体制を取っている。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配慮している。		配慮しているが、現在産休の為不在となっている。処置等の場合が発生した時は医療機関への受診を行っている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時は職員が頻りに訪問し家族と病院関係者と相談しながら、早期に退院できるようにしている。退院後もリハビリを日々の生活の中で行える様に心がけている。		サマリー提供や、施設での生活を細かく病院関係者へ説明できる様な環境作りをするように努めている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	退院に向けて会議を行う場を設けて、連携を図っている。		早い段階から全職員が同じ知識を持てるように勉強会を設けている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度、終末期の利用者がいないが今後のため勉強会や話し合いを行っている。		医師である理事長は、利用者が車椅子を使わず歩いて日常生活が送れる事を運営目標に掲げている。入居者の健康管理や職員への重度化の対応について指導している。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む事のダメージを最小限にいとめる対応として話し合いの場を設け、馴染みのある物等を持ち込んで頂く様をお願いしている。		本入居する前に体験入所をして頂き、施設の雰囲気を感じて頂くようにしている。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉づかいや態度には十分注意し人権の尊重に努めている。介護計画等の個人情報に関する書類は事務所の書棚に保管し、取り扱いは厳重にしている。マニュアルは、法人として整備されている。	個人情報マニュアルを全職員が必ず読み、把握・理解しサインをするようにしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者との日々の会話や表情・行動の観察から心がけている。又、利用者に希望を伺い希望に副える様に支援している。	選択の自由の確保の為、幅広い受け入れが出来る様、常に努力している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の状況を日誌等に記録し、職員で話し合う中でその人にあった介護に役立てている。食事では、それぞれが各自のペースで食べられるように場所や食事形態の工夫をしている。	他の利用者のペースを気にせずに生活が出来る様に援助している。又、希望に副えない場合には早急に考え対応している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみ・服装などは個々の好みに応じ、理容・美容はご家族と連携して本人の希望に副った対応を行っている。	希望の有無を確認し、ご家族と連携しながら本人の望む店舗へ行けるように支援している。又、意思伝達が上手く出来ない方は、家族に聞き取り入れている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で栽培した野菜を食材に使用している。準備・配膳・下膳を職員と会話をしながら行う。又、その日の天気なども配慮しその場で調理等を利用者と一緒に考え美味しく楽しめるように援助している。	個々の能力を最大限に活用し、その利用者にあった仕事を分担して行っている。季節感や天気に配慮して献立を利用者と一緒に考えて作成している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望を優先し、自分の好みの物を選んでいる。外出の時は10円まんじゅうや呑龍様の焼まんじゅうを購入し、皆様に楽しんで食べている。	本人や家族に好物を聞き、皆様が満足出来る物を提供するように努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを申し送りに記入しトイレ誘導の時間や利用者1人ひとりに合わせた方法を取るよう支援している。		排泄パターンを1人ひとり把握しリズムに合わせて、こまめにトイレ誘導を支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調を考え、入りたいと希望があれば入浴日以外でも入浴出来る様にしている。		利用者の体調・希望を考え入浴の時間を自由にしてている。又、入浴拒否者には日頃親しくしている入居者が誘うなどして促している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間は良眠出来る様に、日中は運動をしたり散歩に出掛けたりしている。		日中は、運動したり散歩に出かけたりしている。又、天気の良い日は布団干しをし気持ちよく睡眠出来る様に支援している。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る事、欠落した能力を理解し個々にあった仕事を見つけ、出来たら褒める事で向上心を持ち、視野を広げてもらう。		自主性を高める為、特定の役割を決めず手伝って頂いている。又、昔の歌を皆で唄ったり、昔のテレビ番組を見て頂き昔話をして頂く。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の能力のある人には所持して頂いて、食べたい物や飲みたい物、生活用品を買ったりしている。管理の出来ない人には必要な物を家族と相談している。		自己管理・施設管理問わず買いたいものがある場合は、近くのスーパーなどに一緒に行き買って頂く。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入浴日以外は、ドライブや散歩に出かけている。利用者「今日はどこに行きたいですか?」と声をかけ、意見が出た時は希望に応じて支援している。		散歩を日課とし、中学校1周コース・神社参拝コース等いくつかのコースがある。又、花見・ダム見学・鯉のぼり見学等のドライブをしている。その他には、1日おきの買い物や外出の機会を多くするように心がけている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に1度の家族交流。個別では家族対応の定期受診後に外食や散髪に出かけている。又、施設では皆様と一緒に買い物に出かけている。		天気・体調などを配慮、把握した上で週1回を目安に手作りの弁当を持って公園などに外出している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、自ら連絡を取りたいと希望があれば対応している。		手紙のやり取りを自由にされている。家族からの電話を取り次いだり、自ら電話を利用される方もいる。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人・友人等が面会に来た時は、明るく出迎えてお茶などを提供し本人の居室でゆっくり過ごして頂けるようにしている。		家族・知人・友人等が面会に来られた際には玄関に月ごとにコアラ新聞を提示し毎月の様子が分かるようにしている。お茶なども提供し、本人の居室でゆっくり過ごして頂けるようにしている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を必要とする利用者がいない為、現在行っていない。		拘束を必要となる段階になった場合でも、拘束具を使用しないでも行えるケアを全職員で話し合う場を設けて取り組んでいる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室、お風呂場など、鍵をかけないようにしている。		玄関や居室には鍵をかけていない。徘徊者介護の在り方を職員会議で検討し、玄関にセンサーを設置している。無断外出者には、安全を見守りつつしばらく後ろを歩き、声かけをして一緒に帰る等の支援をしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で過ごされている時でも30分後などに利用者の様子を伺うように努力している。		居室で過ごされている時でも、こまめに様子を伺っている。お茶の時間や、体操・レクを行う際にはその都度声かけをしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に合わせて対応している。		各利用者の状態にあわせて、施設での管理・保管を行っている。自己にて管理・保管をされている際には見守りを行っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故の再発防止対策にむけて職員間の話し合いを会議にて取り組んでいる。		日々の申し送りや、月1回の職員会議にて事故の再発防止対策にむけて話し合いを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDが設置されている。救命救急講義に参加している。		事故や急変時の対応についてのマニュアルを作成し、全職員が対応出来る様にしている。又、日頃から小さな変化でも見られた場合には管理者に報告するようにしている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震や火災を知らせる火災報知機が廊下に設置されている。事務所には火災受信機が設置されている。事務所や廊下などに消火器を設置している。		事務所や廊下などに消火器を設置し、廊下には地震や火災を知らせる火災報知機を設置。事務所には火災受信機が設置されている。又、定期的に避難訓練を行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こりえるリスクを家族と相談し、状況の変化に応じて家族に説明している。		面会時や受診の付き添いの時には必ず日頃の状態を説明している。いちじるしく変化が見られた場合には話し合える場を設けて利用者・ご家族が不安にならない様に取り組んでいる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調の変化や異変の早期発見に努め、情報を共有し対応に結び付ける支援をしている。		小さな変化に気付いた場合、申し送りや会議等で話すようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診ノートや薬関係のファイルを活用し、職員がいつでも見ることができるようになっている。		受診ノートや薬関係ファイルを使用し全職員が把握出来る様にしている。又、受診に付き添った家族や職員には出来るだけ詳しく医師に説明を受けて頂く様にしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	お腹のマッサージや散歩、手足の運動を行っている。		食事の際には、野菜や水分を多く取って頂く様に促している。その他には、散歩や腹部マッサージ、体操などを行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	持っている機能を最大限に活かし、配慮しながら行っている。		自己にて口腔ケアが可能な方に関しては、促しや見守りにて対応している。困難な方には、ガーゼやスポンジ等を使用し介助している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに合わせて、食べやすい大きさや量を考えて出している。食事の時間と10時・15時に水分補給をして頂き、それ以外は本人の希望に応じて摂取して頂いている。	水分を多く取って頂けるように、その人の好みに合った飲み物を提供している。利用者ごとの疾患・体重の増減に配慮し提供している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を受けて頂き、外出後は手洗いうがいをして頂く様に徹底している。又、マニュアルを作成し職員が把握している。	全利用者・職員にインフルエンザ予防接種を受けて頂き、外出後は必ず手洗いうがいを徹底している。感染症が発症した場合には早急に対応出来るように、マニュアルを作成し全職員が対応出来るようにしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日使用するまな板と包丁は、熱湯消毒し利用者が使用するおしぼりタオルは、漂白剤で消毒している。夏場は痛みやすい食材はその日に買い出しするように心がけている。	必ず調理前の手洗いを入念に行い、まな板・包丁は定期的に漂白で消毒している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や居室に鍵をかけないようにしている。徘徊者の対応は、会議で検討し玄関にセンサーを設置している。無断外出者へは安全を確保しつつ一定の距離を保ちながら見守りを行っている。	施錠せず玄関を開放されている為、出入りしやすい環境作りを行っている。利用者の所在地が把握出来る様に、センサーを設置している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の家族から頂いた花をリビングのテーブルに飾らせて頂いたり、外出した時に撮った写真などを飾ったりしている。	季節に合った作品を利用者と共同で作成し、リビングや廊下に飾っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やリビングに椅子を設置している為、好きな時に座れる事が出来る様にしている。	玄関や庭など静かな場所に椅子を設置し、自由に座る事が出来る様にしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れたタンスや家族の写真、本人の作品(塗り絵など)が飾れている。		本人が使いやすい様に、使い慣れた道具やテレビ・ラジオなどを持ってきて頂き使用している。又、その人に合った場所に設置して使っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時期により利用者の居室に加湿器を設置して頂き、昼間は居室のまどを開けさせて頂き換気をしている。ジェットパーフェクター(除菌・殺虫・消毒・消臭)を設置している。		日中は、窓を開けて換気をして空気や臭いの入れ替えをしている。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの身体機能に合わせて、歩行器や手すりを使用している。		1人ひとりの機能に合わせて道具を使用している。又、機能低下に繋がらないようにレクや体操を行っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	手作りカレンダーを作り、利用者が日付が分かるように見やすい場所に設置している。		各場所が分かるように張り紙をし、誰にでも分かる様にしている。又、昼夜が分かるようにカーテンの開閉で対応している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑に野菜を植え、収穫時期には利用者と一緒に収穫している。		利用者から種のまき方や収穫の時期などを教えて頂きながら一緒に行く。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)